

ハ目的ニ供シ能ハサル状態ニ至ラシムタル場合ヲモ包含スルモノト解スルヲ
 相當トス故ニ瓦斯ヲ放散セシメ若クハ酒類ヲ漏出セシメ又ハ器物ヲ海中ニ投
 スルカ如キモ所謂ル物ノ損壞ナリ食器ヲ汚穢シテ感情上再ヒ之ヲ使用スルコ
 ト能ハサルニ至ラシムルカ如キモ亦タ所謂ル物ノ損壞ナリ又飼養セル禽獸ヲ
 逸走セシムルカ如キモ所謂ル物ノ傷害ナリト謂フコトヲ得可シ。

毀棄罪ノ目的物ハ他人ノ所有物タルコトヲ原則トス然レトモ法律ハ其例外ト
 シテ自己ノ所有物ト雖モ公務所ヨリ差押ヲ受ケ物權ヲ負擔シ又ハ貸貸シタル物
 ヲ毀棄シタルトキハ恰モ他人ノ所有物ヲ毀棄シタルト同一視シ其目的物ノ種類
 如何ニ因リテ(乙)乃至(丁)ノ犯罪ヲ構成スル旨ノ特別規定ヲ設ケタリ(第二六二條)而
 シテ(甲)ノ犯罪ノ目的物ハ單ニ公務所ノ用ニ供スルモノタルヲ以テ足レリトシ其
 所有者ノ何人ナルヤヲ問ハサルカ故ニ此ニ關シテハ特別規定ヲ設クルノ必要ナ
 キモノトス。

第二 隱匿罪

本罪ハ他人ノ信書ヲ隱匿スルニ因リテ成立ス(第二六三條)。

本罪ノ目的物タル信書ハ其封緘シタルモノナルト否トヲ區別セヌ只タ郵便官

署ノ取扱中ニ係ル信書ヲ隱匿スルトキハ(開披毀損拋棄モ亦タ同シ)郵便法(第五二
 條)ニ依リテ處罰セラル、カ故ニ本條ニ於ケル目的物ハ郵便官署ノ取扱中ニ係ラ
 サル信書ノミニ限レルモノトス。

隱匿トハ其所在ハ發見ヲ不能若クハ困難ナラシムル行為ヲ謂フ而シテ本罪ニ
 於ケル隱匿ハ行為ハ其信書ハ内容カ未タ受信人ノ認識ニ達セサル以前ニ於テ行
 ハレタルコトヲ要ス蓋シ信書ノ效用ハ意思ノ傳達ニ在リ而シテ其意思傳達ノ以
 前ニ於テ之ヲ隱匿スルトキハ信書發送ノ目的ヲ達スルコトヲ得スシテ信書ノ效
 用ハ全然妨害セラル故ニ信書ヲ隱匿スルハ之ヲ毀棄スルト取テ擇フ所ナシ是レ
 法律カ普通文書ノ隱匿ヲ處罰セサルニ拘ハラステニ信書ノ隱匿ヲ處罰スル所以
 ナリトス若シ夫レ已ニ意思傳達ノ效用ヲ遂ケタル以後ニ於テハ其信書ハ最早普
 通ノ文書ニシテ之ヲ特別ニ保護スルノ必要ナシ從テ之ヲ毀棄シタルトキニ於テ
 始メテ交書毀棄罪ト爲リ其權義關係ノ有無ニ因リ(乙)若クハ(丁)ノ犯罪ヲ構成スル
 モノトス。

本罪ハ行為ハ單純ナル隱匿ヲ爲スニ在リ若シ不法ニ取得シタル後之ヲ隱匿ス
 ルトキハ其取得行為カ竊盜罪詐欺罪等ヲ構成シ又自己ノ占有スル信書ヲ不法ニ

領得シタル後之ヲ隱匿スルトキハ其領得行為カ横領罪ヲ構成シ隱匿ノ行為ハ其等ノ犯行為中ニ包含セラル、當然ノ結果トシテ特ニ本罪ヲ構成スルコト無シ。本罪ハ信書ノ秘密ヲ害スルノ罪ニ非スシテ信書ノ具有スル意思傳達ノ效用ヲ妨害スルノ罪ナリ故ニ若シ封緘シタル信書ヲ開披スルトキハ本罪ト爲ラスシテ信書開披罪ヲ構成ス。

第二百五十九條ノ文書毀棄罪第二百六十一條ノ物件毀棄罪及ヒ第二百六十三條ノ信書隱匿罪ハ之ヲ親告罪トセリ(第二六四條)蓋シ是等ノ物件ハ多種多樣ニシテ其必要ノ有無若クハ損害ノ輕重等ハ一ニ被害者ノ判斷ニ任ヌノ外無シ故ニ法律ハ不必要ナル處罰ヲ避クルカ爲メニ被害者ノ告訴ヲ以テ訴追條件ト爲シタルモノトス。

刑法各論

